

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	7

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2017」写真集を発行しました！

JRRN では、水辺が創出する美しい景観の未来への継承を目的として、『桜のある水辺風景 2017』の募集を行ってまいりました。2010 年から始まったこの企画も、今年はこれまでと比較にならないほど、多くの皆様に関心をもっていただき、最終的には、全国 128 名より総計 292 作品をご応募頂きました。誠にありがとうございました。

この度、ご応募頂いた全ての写真を『桜のある水辺風景 2017』応募写真集』としてとりまとめ、ホームページ上で PDF データとして公開しましたので、是非ご覧ください。なお、公開ファイルの容量制限の関係上、解像度をオリジナルファイルよりも低く設定していますので、予めご了承ください。

◆公開先ホームページ URL :

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/203>

(※過去 7 回の写真集も公開しております。)

また、Facebook ページでも、全ての投稿作品を閲覧することが可能です。Facebook では、比較的解像度の高い状態で公開していますので、あわせてご覧ください。

◆Facebook ページ URL :

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

今回は前例のない程の多くのご応募をいただき、「桜」という切り口だけでもこれほど水辺は多様なのかと、認識を新たにさせられました。また、メッセージと合わせて写真を見ることで、更なる味わい深さを感じることができました。

来年も本企画を予定しております。ご応募頂いた皆様には、引き続きのご協力をお願いします。また、今年は応募を見送った皆様も、来年は是非ご参加ください。

なお、本企画について、お気づきの点があれば事務局までメールをお願いします。今後の参考とさせていただきます。



桜の水辺風景 2017

写真集の表紙

(JRRN 事務局・阿部充)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

平成 29 年度 第 1 回 JRRN 理事会開催 及び 「JRRN 年次報告 2016」 発行

2017年6月1日(木)に、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)の『平成29年度 第1回理事会』が開催され、JRRN 定款に基づき二つの議案について決議を行い承認されました。



JRRN 設立から 11 年目となる本年は、8 月より JRRN がアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の事務局を 5 年ぶりに担う年でもあり、今後の更なる飛躍に向けた活動の方向性や組織のあり方などについて活発な議論が行われました。

平成 29 年度 第 1 回 JRRN 理事会

1. 開催日時： 2017年6月1日(木) 16:00-17:30
2. 開催場所：(公財)リバーフロント研究所 会議室
3. 議案：
 - 議案第1号 平成28年度 事業報告及び収支決算
 - 議案第2号 平成29年度 事業計画及び収支予算
 - 報告第1号 事務局の組織及び運営
4. 出席者
 - 代表理事 土屋 信行
 - 理事 伊藤 一正
 - 理事 白川 直樹
 (佐合純造理事は定款第26条に基づき書面表決)

また、本理事会での過年度事業報告の承認を経て、JRRN の平成 28 年度 (2016 年 4 月～2017 年 3 月) の活動を取りまとめた「JRRN 事業報告 2016」を作成し公開しました。(A4 版、全 4 ページ)

平成 29 年度も、会員及び海外連携機関との協働を基本に、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じて、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に貢献し、国内外のネットワークの拡大を図ります。

特に、JRRN がこれまで取組んできた河川再生に関わる情報共有基盤の更なる強化、河川再生の普及・啓発に向けた行事開催や調査研究、また国内外関係団体との協働活動等に力を注ぎ、川づくりの中間支援機能及びオープンイノベーション・プラットフォームの役割を担ってまいりますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

JRRN Annual Report 2016

JRRN
Japan River Restoration Network

日本河川・流域再生ネットワーク 平成 28 年度 事業報告書

<http://www.a-rr.net/jp/>
 <https://www.facebook.com/JapanRRN>

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動しています。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取り組みを国内に還元する役割を担っています。

平成 28 年度 (2016 年) は、河川再生に関わる情報共有基盤の整備、河川再生の普及・啓発に向けた行事等の開催、承認の小さな自然再生や日本の地産の海外普及に関する調査研究、国内外関係団体の活動支援や協働活動などに取り組みました。

<p style="font-size: x-small;">河川再生に関わる情報共有基盤整備</p>	<p style="font-size: x-small;">河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施</p>
<p style="font-size: x-small;">河川再生に関わる調査研究</p>	<p style="font-size: x-small;">河川再生に関する冊子等の発行</p>
<p style="font-size: x-small;">河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働</p>	

「JRRN 事業報告 2016」は以下から (PDF 970KB)

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/annual/52>

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

天晴隅田川！ ～「第12回隅田川クリーン大作戦」に参加しました～

寄稿者：上原 励（株式会社建設技術研究所・JRRN 会員）

久しぶりにやってきました隅田川。クリーン大作戦とやらに参戦すべく！

6月17日朝、余裕をもって浅草駅で下車しました。ナントいい天気なのでしょう！晴れすぎです！せっかくだからまずは浅草寺にお参りしてきましたよ。浅草はいつ来てもにぎやかでいいですね。朝早くて仲見世は開いていなくても、世界中からの観光客の皆さんでにぎわっていました。

そして我々の集合場所の桜橋までは、隅田公園をつきあって行きました。隅田公園は散歩やジョギング、のんびり休憩の人たちがたくさんいました。隅田公園には、市民調査で桜の開花状況を調べに来たことがありますし、妻と浴衣を着て花火見物に来たこともあります。もちろん仕事でも度々訪れてはいますが、ゴミを拾いに来たのは初めてでした。

私が勤務する株式会社建設技術研究所がこの活動に参画していることは知っていましたが、私はさいたま市在住勤務のため、これまで参加したことはありませんでした。たくさんの参加者がいて驚きました（当社の参加者は過去最多だったそうです）。隅田川はみなさんに愛されていますね。日本の顔ですからきれいにしなきゃと張り切っていると、さらにびっくり！意外とゴミが少ないのです。こんなに人がたくさん来ているのに。もちろん所々にはタバコの吸い殻とかお菓子の袋とか、物陰に隠されたように落ちていますが、場所によっては割れたガラス瓶なども落ちていて、危ないところもありましたので、かけらをひとつひとつ拾いましたよ。そして清掃していると、通りがかった地域の方々が「ご苦労様です」と声をかけてくれます。これもうれしいですね。

本当に暑い日でしたが、半日作業で汗をかいた後の冷たいお茶が美味しかったです（お酒を飲まないの）。また機会があればぜひ参加したいと思います。家族を誘って。



清掃活動の様子（水面には清掃船）



参加した弊社メンバーでの記念撮影

（「隅田川クリーン大作戦」の概要）

「隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会」主催で毎年6月第三土曜日に開催され、隅田川中流域の桜橋から下流部の勝鬃橋までの約8kmの両岸を対象に、テラス・緑地帯を4ルートに分け歩きながらゴールの浜町公園まで一斉清掃する行事で、本年度で12回目となります。（1ルート平均約4km）

（参加社員の感想の一例） ※本年度は弊社社員とその家族・友人が計50名参加致しました。

- 花壇等の花々が美しく、地域住民の美化意識の高さに驚きました。
- 清掃活動に参加して、ゴミを見つける苦労とゴミ発見の喜びという日頃では想像できない体験ができた日でした。
- 河川沿いをジョギングする人、散歩する人、日向ぼっこする人など、日常的に川と人との関りが深いとも感じました。
- 沿川の景色や風を感じることができ、リフレッシュすることができました。また、機会があれば参加したいと思います。

7月



あの日のあの川 リレー日記 ～第30話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第30話主人公 饒平名青空

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 4年次 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：沖縄県 石垣新川川)

「犬と駆けたアンパル」

いつのこと？：小学生

どこの川？：名蔵アンパル(干潟)、名蔵湾

幼いころから週末に家族で出かける先はもっぱら海でした。私が生まれ育ったのは沖縄県の石垣島で、海や山以外に遊ぶところがないのですが、何百回と訪れても飽きることはありません。お弁当とお菓子とパラソルを持って行って家族でのんびり過ごす時間は、ささやかですが贅沢なものでした。そんな家族でのお出掛けを私以上に楽しみにしていたのがうちの犬です。普段の散歩とは違って海ではリードを外して思いっきり走り回ることができるので(観光地のビーチ以外は人がほとんどいないのです)、「海いくよ！」と声をかけると大喜びで車に飛び乗りました。車の窓から顔を出して気持ちよさそうに風を感じていて、海が近づいてくると匂いで分かるらしく「キューンキューン！」と大騒ぎします。この鳴き声を聞くと私もつられて待ちきれなくなります。じとっとならにじむ汗をぬぐいながらああ早く海に入りたい！とはやる気持ちを抑え、「あんまり身を乗り出したら落ちちゃうって」と犬を叱るのが恒例でした。暑い日差し、キラキラと眩しいくらいに反射する青い海、潮のむわっとした匂い、黒くて艶々した毛並みの犬、うるさい鳴き声、お弁当の美味しそうな匂い、思い出だけで今でもあの時の気持ちが胸によみがえります。

犬と私の一番のお気に入りの場所はどこだったろう・・・と考えるとすぐに名蔵アンパルが思い浮かびました。名蔵アンパルは名蔵川の河口にできた干潟で、2005年にはラムサール条約に登録されている生き物の宝庫です。堅苦しい保護区域というわけではなく林を抜けた先にひっそりとある干潟で、どこまでも続く水面に雲やマングローブが反射して美しい光景が広がっています。人気もなくまるで秘密基地のようなアンパルは

私のお気に入りの場所で、うちの犬も水鳥を追いかけるのが大好きでした。鳥を追いかけて遠くのほうまで走って行く犬を横目で見ながらマングローブの根元に目をやると、ひっそりと潜んでいるのが私の宿敵の「とんとんみー（ミナミトビハゼ）」です。ぼけーっと腑抜けた顔に似合わないすばしっこい動きでなかなか捕まえることのできないとんとんみーと戦うのがアンパルでのお約束でした。泥だらけになりながら時間も忘れて追いかけてまわりましたが結局一度も捕まえることはできませんでした。犬も水鳥に追いつけずに諦めて私のところに戻ってきました。日が落ちてそろそろ帰ろうと母親が言いだすまで犬も私も夢中になって遊んで、潮と泥の香りに包まれた帰りの車で疲れ果てて眠りこけました。家に帰ると「楽しかったね、また行こうね」と声をかけながら泥だらけの犬をお風呂に入れるのが日課でした。

小学六年生の秋のことでした。幼稚園生の時に家に来た犬は7歳になりました。部活動で忙しい私は、この頃一緒に散歩することが少なくなっていました。少し前から体調が悪そうな犬の様子を心配しながらもあまりかまっていなかった。ある週末父親に「散歩、青空も行こう」と声をかけられたのですが何故かこの日はとても行きたくなくて、お留守番してるから行ってきてとそっけなく返してしまいました。「体調悪そうだしこれが最後の散歩になるかもしれないよ」という予想もしていなかった父の言葉にどきどきしながらも「縁起でもないこと言わないで」と言って送り出したのでした。2時間ほど経って帰宅した音が聞こえたのでいつもより早いなぁと思いながら出迎えると、今までに見たことのない顔で泣いている父の姿がありました。「死んじゃった」という一言で、何のことが分かりました。その日の散歩は名蔵湾の浜だったそうです。アンパルからも近く同じくらいよく行く場所で、うちの犬も大好きな場所でした。車の中で窓から顔を出す元気もなかったのですが、車から降り木々の間を抜け目の前に海がぱっと広がる場所まで歩いたところでぱたんと倒れたそうです。「大好きな海が見えて安心したんだろうな」と話す父と一緒に私もわんわん泣きました。数日後、名蔵湾の人気の少ない浜辺に埋めてあげることにしました。いつでも海で遊べるし、大好きなアンパルもここから近いねと心の中で声をかけながら家族全員でお別れをしました。

あれから10年が経ち、大学生になった私は帰省する度に思い出の場所に行きます。海とも川とも違う独特な潮と泥の匂いのするアンパルを眺めながら、ああここで一緒に遊んだなあ、鳥を見つけるとすぐ追いかけて黒い点に見えるくらい遠くに行っちゃうんだよなあと懐かしく思い出すのです。今回リレー日記を執筆するにあたって水辺での記憶を掘り起こしたのですが、どこを切り取っても私の水辺での思い出は、黒くて艶々な毛並みで釣った魚を横で盗み食いするやんちゃなあの犬と一緒にあることに気づき、温かい気持ちになりました。あの頃とは違い、犬に追い回されることもなくのんびりと餌を探している水鳥を見ると、うちの犬の代わりに追いかけてまわりたい気分になります。私にとってアンパルはいつでも童心に返れる大切な場所です。



ラムサール条約登録湿地関係市町村会議HPより引用
(http://www.ramsarsite.jp/jp_24a.html)



(次は花島綺一さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.98

岡村幸二 (JRRN 会員)

川風をつかむ：

隅田川に“かわてらす” 社会実験で「河床」に挑戦



撮影：2017年4月（東京都江東区・隅田川）

◆歴史的橋梁を眺める最良の視点場

ホテルの2階部分に飲食・休憩・散策など、多目的にかわてらすに外部からも直接アクセスできる階段を設けることで、水辺の魅力に着目した開放的な施設を実現しています。

◆隅田川の賑わいを再び求めて

2階デッキのかわてらすの前面には、隅田川の水面近くのテラスを通ることができるように、堤防（カミソリ堤）の表も裏も一般の人が通行できるようになっています。

 JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

会議・イベント案内 (2017年7月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 日本学術会議公開シンポジウム「生態系インフラストラクチャーを社会実装する」

○日時：2017年7月17日(月) 13:30-17:00

○主催：日本学術会議 自然環境保全再生分科会

○場所：日本学術会議大講堂（東京都港区）

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2617.html>

■ 魅力ある 水辺空間の再生に関するシンポジウム『魅力ある水辺空間の再生を目指して！～多自然かわづくり、これからの軌道～』

○日時：2017年7月25日(火) 13:30-17:00

○主催：国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター

○場所：ヤクルトホール（東京都港区）

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2791.html>

■ 東京の川を考えるシンポジウム 2017 ～みんなで見つけよう！水辺のStory 東京の川～

○日時：2017年7月26日(水) 13:30-16:30

○主催：東京都建設局

○場所：都民ホール（都庁議会棟1階）（東京都新宿区）

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2605.html>

■ 第10回いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2017年9月9日(土)～10(日)

○主催：いい川・いい川づくり実行委員会

○場所：福岡大学（福岡県 福岡市）

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2584.html>

■ 応用生態工学会第21回大会/ELR2017名古屋

○日時：2017年9月22日(金)～25日(月)

○主催：応用生態工学会

○場所：名古屋大学(愛知県名古屋市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2588.html>

■ 第17回川に学ぶ体験活動全国大会 in 北九州

○日時：2017年10月14日(土)～15(日)

○主催：川に学ぶ体験活動協議会

○場所：北九州市芸術劇場ほか（福岡県北九州市）

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2586.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？ (2017.3 発行)

・発行：「小さな自然再生」研究会/日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

・発行年月：2017年3月

・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発行)

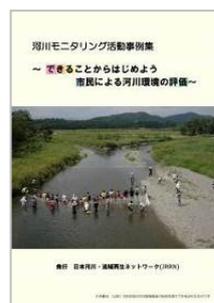
・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)

・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

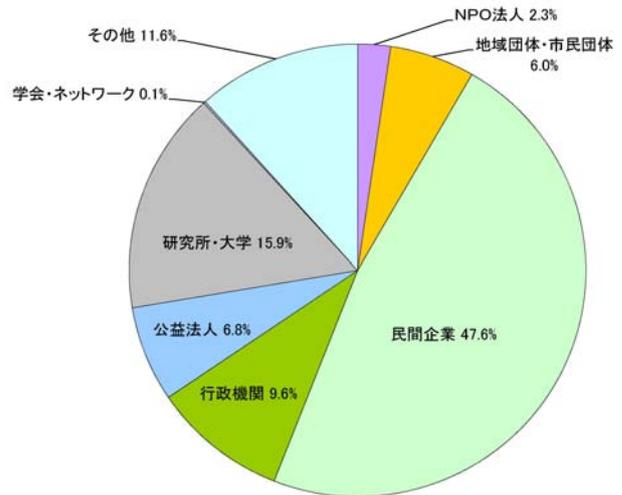
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年6月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：762名、団体会員数：60団体)

※6月の新規入会数：個人会員4、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

